

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 30 日現在

機関番号：84419

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23720066

研究課題名(和文) 中国・五代十国時代(十世紀)の金属工芸に関する基礎調査研究

研究課題名(英文) Basic research about metal arts and crafts in the Chinese Five Dynasties and Ten Kingdoms period (the tenth century)

研究代表者

灌 朝子(TAKI, ASAKO)

公益財団法人大和文華館・その他部局等・研究員

研究者番号：90416264

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：これまで研究の薄い分野であった十世紀の金属工芸作品について、工芸技術の高い地域であった江南の浙江省を中心に、王族などの墳墓出土品を主とした調査を行うことで当時の一級品の技術・様式の水準を把握することができた。なお、集積したデータを基に研究は進行中であるが、調査研究の成果については、自身が所属する公益財団法人大和文華館での展覧会(特別企画展「煌めきの美-東洋の金属工芸-」平成26年1月5日～2月16日)などに反映させているほか、中国・浙江省博物館主催の国際シンポジウムにて研究発表を二度行い(平成23年9月、平成26年11月)、その研究成果の一部を公開している。

研究成果の概要(英文)：It was the investigation which made the home artifacts of royalty the center mainly by Zhejiang Ministry in Chiangnan which was the high area of technology of arts and crafts about the tenth century metallic work of arts and crafts which was the field of few study up before, and it was possible to grasp the standard of the technology and the style of first class items in those days. Further, the study is in progress based on accumulated data. About an outcome of research, I have an exhibition at the Yamatobunkakan Museum which I belong (special plan exhibition "metallic-of arts and crafts of the beauty of the glitter-Orient" January 5, 2014-February 16), and I present research twice in an international symposium of China and Zhejiang Ministry museum sponsorship (September, 2011 and November, 2014), I exhibited the part of the study results.

研究分野：中国仏教工芸史

キーワード：五代十国時代 呉越国 金属工芸 線刻鏡 美術史学 国際情報交換 中国 浙江省

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

- (1) 大学在学時から長年の研究課題であり、日本の仏教工芸（鏡像、経塚遺物など）と関連が認められるにも関わらず、研究の薄い分野であったために興味を引かれ、研究を始めた。
- (2) 2006年に大和文華館にて特別展覧会「鏡像の美 - 鏡にあらわされた仏の世界 -」を開催、中国及び韓国にて関連作品の調査を行うとともに、両国の研究者を招聘しシンポジウムを行うなど研究交流を深めた。この研究協力体制を深め、今回の研究の基盤とした。

2. 研究の目的

- (1) 本研究は、中国・五代十国時代（十世紀）に制作された金属工芸について、現存する制作年代や背景が明らかな作例或いは推定可能な作例を中心に実地調査を行い、また文献等史料の収集や分析から基礎的な資料データを作成し、さらに、五代十国時代の金属工芸を全体的な視野のもとで把握し、美術史的に位置づけることを目的とする。これを基に韓国・日本を含めた東アジアの工芸作品と比較検証を行い、工芸分野における交流や技術の伝播・受容を明らかにするための基礎的な調査研究としたい。
- (2) 本研究では対象を金属工芸に絞り、どのような造形活動が行われていたのかを地域（国、勢力）別に検証し、明らかにしていく。その際、制作年代や背景が明らかな作例或いは推定可能な作例を中心に、現存する作例の基礎的な資料データを作成、また、文献史料から読み取れる事例を加えることによって、造形活動の事例の補強を図り、その全体像に近づき、捉えることを初期目標とする。さらに、これらの作例の実見調査と考察から、五代十国時代の金属工芸の持つ時代性を明らかにすることを最終的な目標とし、そのための基礎的な調査を遂行することを本研究の目的とする。

3. 研究の方法

本研究の方法は基礎的な資料データの作成に重点を置き、毎年目標内容を定めて文献調査と作品調査を並行して進め、これらをまとめて考察を行った。具体的な作業は以下の内容で、これらは重点を移行しながら並行して行った。データ作成は現在及び今後も継続して進めていく。

- (1) 五代十国時代の金工作品に関する国内外の美術・博物館の目録・発掘報告書など

文献の調査と画像資料を収集、リストを作成。

- (2) 史料をもとに、五代十国の国・勢力ごとの造形活動（特に金工について）、製作背景や政策状況に関する文献調査。

- (3) 現地及び美術・博物館等で紀年銘作品を中心に金工作品の実見調査を行う。

実地調査は各年度に分けて行い、平成23年度は中国・浙江省博物館、安吉県博物館、良渚博物館、平成24年度は中国・杭州博物館、南宋官窯博物館、寧波博物館、北京首都博物館、上海博物館、蘇州博物館、平成25年度は臨安市博物館、無錫博物院、韓国・慶州、日本・九州国立博物館、高麗美術館、和泉市久保惣記念美術館、平成26年度はイギリス・大英博物館、V&A Museum、中国・南京博物院、山西博物院、山西省芸術博物館などを訪れた。

- (4) (1)~(3)をもとに考察し、成果を発表する。

4. 研究成果

- (1) 本研究の目的はこれまでほとんど注目されず、研究の対象とされてこなかった中国・五代十国時代の金属工芸を実見調査し、基礎資料データを製作することになった。今回の調査により、呉越国の代表的な作品を中心とする資料データを作成することができた。

調査によって得た重要な成果の一つが、呉越国の金属工芸に美術史及び工芸史において高い技術に基づいた価値を確認することができた点で、さらに仏教文化史の観点からも重要な意義を有していることを確認できた。

- (2) 本調査では、中国浙江省杭州市を拠点として江南の金属工芸に注目をして調査を進めた。現存する呉越国の金属工芸は、仏塔及び王族の墳墓からの出土品を主とし、これらを中心として調査や研究を進めたため、当時の第一級品に見られる高い技術及び水準をうかがい知ることができた。また、金属工芸の様式に唐時代の作風を色濃く認めることができ、北方の遼（契丹）の金属工芸との共通性が認められた。

特に、呉越国時代に制作された銅製・鉄製・銀製の小型仏塔（阿育王塔）が江南を中心にして、北宋時代や日本や朝鮮半島に及ぶ広い範囲に与えた影響の大きさが作風や様式などからも判明した。

(3) 金属工芸作品の調査により、制作された背景及び工芸の使用法(埋納、奉納、一度奉納されたものを移転する、など)についても新たな見解を持つことができたため、中国浙江省博物館におけるシンポジウムにおいて発表を行った。

(4) 本研究は中国の研究者の協力を得て、行うことで進めることができた。今後も研究交流を深めることで、呉越国の東アジアの中で果たした美術史的・文化史的な意義についても研究を行いたい。

(5) 今後の課題は、本研究によって集積した作品に関する情報や調査内容を基礎データとして、今後の研究に活用していくことにある。

五代十国時代の金属工芸品は現存する作品に限られており、その制作の基盤には国王や王族など為政者側の人々が関わっている場合が多い。呉越国の工芸品制作のありかたについては、政治的な背景も認められる。

今後展望として、呉越国の工芸に対する価値観(唐時代様式の継承)や仏教との関わり(阿育王塔造塔など)の観点から、更に考察を深める必要がある。このような視点からの考察が、唐から五代十国を経て宋時代へと移り変わる過程における金属工芸の展開や工芸品の役割を明らかにすることができると思う。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

瀧朝子、日本僧人齋然請来の釈迦如来像在呉越仏教上の意義(日本僧齋然請来の釈迦如来像の呉越仏教における意義について)、浙江省博物館編(黎毓馨主編)『呉越勝覧 国際学術討論会論文集』、2011年12月、中国書店、査読無、154 - 178頁

瀧朝子、敦煌及び周辺石窟における水月観音図の展開について 人物群表現に注目して、神戸大学文学部主催『敦煌・シルクロード 国際研究会論文集』、2012年8月21日、田中プリント、査読無、235 - 256頁

瀧朝子、仏塔への古物の納入に関する一考察、百橋明穂先生退職記念献呈論文集刊行委員会編『美術史歴参 百橋明穂先生退職記念献呈論文集』、2013年3月、中央公論美術出版、査読無、483 - 498頁

瀧朝子、遼の線刻鏡 - 釈迦如来仏舎利塔(慶州白塔) -、仏教美術全集3『図像学 - イメージの成立と伝承(浄土教・説話画)』、2014年5月、竹林舎、査読無、371 - 388頁

[学会発表](計4件)

瀧朝子、呉越国における阿育王塔の造塔と信仰について、美術史学会西支部、2011年9月17日、神戸大学文学部視聴覚教室(兵庫県神戸市)

瀧朝子、日本僧齋然請来の釈迦如来像の呉越仏教における意義について、浙江省博物館主催『呉越勝覧 - 唐宋之間の東南楽国』国際学術討論会、2011年9月29日、浙江省博物館武林門館、(中国・浙江省杭州市)

瀧朝子、敦煌及び周辺石窟における水月観音図の展開について 人物群表現に注目して、神戸大学文学部主催『敦煌・シルクロード 国際研究会』、2012年8月21日、神戸大学(兵庫県神戸市)

瀧朝子、十~十一世紀舎利塔の展開 - 关于定州静志寺/浄衆院塔基出銀制塔的性格(十~十一世紀舎利塔の展開 - 定州静志寺・浄衆院塔基出土銀製塔の性格について -)、浙江省博物館主催『心放俗外 - 定州古塔文物展』中国古代仏塔地宮文物国際学術検討会、2014年11月28日、浙江省博物館武林館(中国・浙江省杭州市)

[図書](計1件)

瀧朝子、天理時報社、大和文華館『煌めきの美 - 東洋の金属工芸 -』展覧会パンフレット、2014年1月5日、16頁

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

瀧 朝子 (TAKI ASAKO)
公益財団法人 大和文華館 学芸部 部
員
研究者番号：90416264

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：